【別紙 3】石橋松太郎と竹島

1）川上健三（1966）：『竹島の歴史地理学的研究』、古今書院

・p.202「（明治 30 年（1897）という年には）同じく隠岐の穏地郡五箇村在住の石橋松太郎および代春一も、小型漁船で竹島に出漁してあしか猟を行なっている」

・p.208「石橋はその後も毎年渡島して同島に一定期間滞在してあしかの猟獲を行なった由である」

2）八幡才太郎嘆願書（1971 年）　※隠岐の島町久見、1889～1979

「明治三十年頃に久見地区故石橋松太郎村議がアシカ捕獲のため竹島に出漁、捕獲した。アシカの表皮を塩漬け、肉より油を取り、阪神方面に出荷して約十年間位、氏の事業を続けて居りましたが、何国からも抗議や干渉を受けた事実はありません。」

3）島根県及び隠岐の島町による調査

・島根県公文書センター所蔵『竹島貸下海驢漁業』における、明治 36（1903）、37 年の石橋松太郎組の竹島アシカ猟の実態【参考 1】・【参考 2】

・石橋松太郎孫（※石橋松太郎の長男石橋勝男の長男）の茂の妻の石橋八重子さん聞き取り（2013 年 2 月）

→夫（石橋茂）の父（石橋勝夫）から、松太郎じいさんは竹島に行き、わき水を使用して、どぶろくを造っていた。それを隠岐で売って儲けていたと聞いた。

・石橋松太郎孫の佐々木恂さん聞き取り（2013 年 5 月）

・八幡才太郎の記録について（1977 年 1 月）

※2017 年 2 月 17 日島根県報道発表資料「明治 30 年代の竹島漁業関係資料の発見について」

「一、高等小学校卒業後＜明治 37（1904）年＞は何処かの書記か警察官志願を志して居りました処、大変な事態に出合ました。私の母のイトコに石橋松太郎がありました。明治二十五・六年頃に高利貸を初めました。当時は道路もなく山道でありましたので、馬に乗って島内を走り廻って居りました。又明治三十年頃にランコ島（竹島）にメチ（アシカ）取りに人を雇って行きました。火縄銃で討死し、皮を塩漬けとし油を取り、大阪方面へ送りました。船長は島前別府、米屋、性は近藤、私宅の近所に妻と長男久蔵と暮して居りました。メチの皮や貝類、魚等を沢山貰ひます。石橋は竹島より船の帰る度に部落の有志を集めて、肉、魚貝類を集めて酒盛を致します。家も新築しました。新築祝には島後旦那様を集めて盛んな祝を致しました。部落民は皆殿様暮しとほめて居りました。」

＊石橋松太郎居宅の経済的価値について

久見地区区有文書：明治 36（1903）年『実力調査下調書』【参考 3】

→久見地区で第 2 位の価値（450 円）（久見地区 74 戸、地区内平均 85 円）

地区内第 1 位と第 2 位の家は同じ大工が建てたとされる。

＊石橋松太郎の土地購入について：『穏地郡久見村土地台帳』【参考 4】

→石橋松太郎は、明治 27（1894）、29、31、34 年に自宅周辺と神社周辺の土地（畑・山林）を相次いで購入していることが確認できる。

●八幡才太郎の証言について（1977、78 年頃）

「私が小学校の 1、2 年の頃＜明治 28（1895）年もしくは明治 29（1896）年＞に、私の母といとこの石橋松太郎という者があったんです。これが竹島へ行って、アシカの皮をはいで、塩漬けにし、肉から油をとって、それで 10 人くらい行っとったんです。それで私は子どもの時に、石橋松太郎のところへ、親が仕事へ行く時に預けられて、それでそこへしょっちゅうおったもんですから、アシカ捕りに行く準備を全部見ております。それでよく知っております。石橋松太郎という者は 10 人ほどで行きたんですが、そうしてちょっと借金ができたんで、竹島をお金にしようと思って、西郷の中井養三郎さんに譲ったわけでございます。そこでわずかなお金をもらって譲ったと。それで中井養三郎さんは、久見の池田吉太郎という方と、橋岡友次郎と、この 3 人共同でやっておられたんです。」

→石橋松太郎による竹島でのアシカ猟は、明治 28（1895）年もしくは明治 29（1896）年から開始された可能性がある。

＝当初は試験操業の可能性

・八幡才太郎の弟の八幡伊三郎（1894～1988）の証言（1977、78 年頃）

「私は子どもの時からね。石橋松太郎がね。オットセイ＜アシカ＞捕りで、帆船で＜竹島へ＞行きとったです。ここ＜久見＞から。それでまあ、絶対私らの考えでは、日本の五箇村久見のもの。」